

# イーハム 広場

県学童保育連絡協議会の特色は

少子化で就学児童数が減少する中でも学童保育を利用する子どもは増加しており、各クラブ（学童保育）とも地域で待機児童を出さないために様々な努力をしています。

岩手県学童保育連絡協議会（以下、協議会）は1969年に父母会が中心となって設立しました。県内には現在、合わせて306クラブがありますが、その運営主体は幼稚園や保育園を運営する社会福祉法人、公設民営など様々です。



全国学童保育研修会 in 岩手のオリジナルTシャツを着た事務局スタッフ（写真中央が千田広幸会長）

## 岩手県学童保育連絡協議会

東北初の「全国学童保育研究集会in岩手」開催

# 大きくおがれ！やさしくおがれ！ 学童保育

うち当協議会の会員クラブは76クラブ（登録児童数は約3千300人、2千756世帯）と、全体の約4分の1を占めています。

協議会の会員は父母会や学童保育に関心のある団体や個人だけに「みんな地域の子ども」という意識の強い方々です。保育施設や保育内容の改善、指導員の労働条件改善にも積極的です。

しかし、小規模な地域では学童保育活動の認知度が低く、活動強化が必要と思っています。

メインとなる活動は保護者と指導員が連携し、研究を進める「県学童保育研究集会」、新指導員のための「新指導員学校」、「県指導員学校・合宿研修」の3つの研修会の開催です。

一方、震災支援では全国の学童保育の仲間から約1,500万円の義援金が寄せられ、被災の大きかった学童保育所の運営費や臨床心理士の派遣費用に活用され、他県から延べ100名の職員が支援に携わりました。また、沿岸部で研修会を開催しながら、震災後、保育環境が一変した陸前高田市と大船渡市に合わせ3か所の学童

保育所の新設に協力してきました。

国の新たな成長戦略に学童保育の拡充が盛り込まれ、成立した「子育て3法」で法的基準を作ることや対象学年の拡大が決まり、また指導員の処遇改善の検討が盛り込まれました。来年度の施行を前に各市町村条例が検討されていますが、より良い条例になるよう働きかけを続けていきます。

## 東北初の全国研究集会への期待が高まっていますが

「大きくおがれ！やさしくおがれ！学童保育」をスローガンに第49回「全国学童保育研究集会in岩手」（10月11日～12日）が開催されます。

11日の全体集会（花巻市総合体育館）では、県内の学童っ子約400名がさんさ踊りなどで歓迎し、その後、家庭・学校教育の現場と手をつなぎながら教育相談活動にあたる庄井良信氏（北海道教育大学大学院教授）の講演「いのちをケアし、育むと言うこと」学童保育がつむぐ未来への希望」を開催します。

2日目は岩手大学を会場に「今

日の子育てと学童保育の役割」「父母会の役割と活動」「保護者が運営する学童保育の課題」など、約50の分科会が開かれます。

専門分科会は「発達障がい児の理解と支援」「国の新しい子育て施策拡充の課題」などをテーマに、全国の先進的な取り組み、実践、運営を学び合える盛りだくさんの内容です。さらに「東日本大震災と学童保育」では、バスで沿岸地域を訪問する移動分科会も実施します。

東北では初の全国集会で、県内から約2千500名、県外から2千名の参加者を見込んでいます。

子ども子育て新制度により、学童保育の制度が大きな転換期を迎えます。そうした中での全国集会だけに、主催側（全国学童保育連絡協議会・岩手県学童保育連絡協議会）として、各地域の条例や設置基準作成を見据えて、県内すべての市町村に後援依頼や協力要請をお願いしました。

市町村の施策や条例づくりを動かす大きな力、学童保育を良くする力となる全国集会にしたいと意気込んでいます。

## 岩手県学童保育連絡協議会

盛岡市みたけ3-38-20岩手県青少年会館内  
019-681-0651

iwate-gakudou@iaa.keeper.ne.jp



全国研in岩手実行委員会キャラクターロゴ「わんこかっぱ」（9種類のロゴバッチを作成しました）



県学童保育クラブ第一（滝沢市）のようす